

【医療用具名称】

- 1.リブレ 2:間質液グルコース測定器、センサーを4cm近づけグルコース値と経過矢印、グラフを表示
注①センサーは上腕背側に常時装着、水深 1m 可、シャワー入浴可(30 分以内)②リーダーは充電式
③センサーが外れたら、元に戻さず外して家族へ連絡
2. 血糖測定器:低血糖を疑う際に、指先等の血液から血糖値を実測するもの
- 3.インスリン注射:血糖を下げるホルモン注射。保管は 30℃以下で、かつ凍結させない。
◆ノボラピット注射(超即効型):毎食(前)後に血糖・食事・運動に合わせて皮下注射、作用発現 5～15 分
◆トレシーバ注射(遅効型):ほぼ 24 時間作用する遅効型で時間を決めて 1 日 1 回眠前に打つ

低血糖症状とその対応(日本学校保健会)

【軽度】元気がない、機嫌が悪い、ドキドキ、強い空腹感

【中等度】黙り込む、冷汗、蒼白

【高度】意識障害、けいれんなど

【低血糖症状】

空腹感、眠い、だるい、
ほろほろする、
(胸が)くるしい感じ
なんか変、不安
【見た目】
元気がない、手の震え
顔色が悪い、汗

いつもとちがう、
低血糖症状かも
リブレ値と(矢印)→ 確認

リブレ80 以上
→ ↑なら
通常対応

リブレ80 以下↓下向

ブドウ糖 10g相当の補食摂取
(ブドウ糖10g:薬袋 1 袋か、
ラムネ10g:大 4 個か10粒)
給食まで 30 分以上あれば
+脂質・蛋白質の補食
(ビスケット1～2 枚)

保健室・教室などで休む

10 分後リブレ値か血糖値を再確認
(くりかえし)

指示通りにインスリンを打ち、給食を食べる
午後の体育・活動内容は確認すること
家族と次の看護師への連携ノートに記録に残す

リブレ値80 未満であれば補食(し血糖を実測する)
給食前実測も 80 未満なら 1 単位減らす

補食後
リブレ値上昇→↑
なら通常対応
給食前実測 80 未満なら
インスリン 1 単位減らす

補食できない

【高血糖症状】250mg/dl以上
ぐったりしている、顔面紅潮、ケトン臭、
眠い、のどが渇く、トイレが近い
↓
水分をとる
倦怠感があれば無理せず休む
運動が可能なら通常対応

家族へ報告、記録で連絡

対処方法を確認する
訪問看護師へ記録(口頭も)で連絡
高血糖はとくに処置はなし
家族と次の看護師への連携ノートに記録に残す

低血糖症状が急に現れた
顔面蒼白、冷や汗、ぐったりしている
補食し 10 分後もリブレ↓
更に補食する

けいれん
意識混濁、昏睡状態

口内にグルコレスキューを流し込む

バクスマの点鼻

家族
に
連絡

119 救急車を呼ぶ

学校管理者へ相談し救急車を呼んでもらう
家族へ連絡
救急隊への指示は 119 シートの通りです。